

# チャペル通信 104号

2016年（福祉特集その6） 特集 広岡浅子とキリスト教

そればかりではなく、患難さえも喜んでいきます。それは患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。この希望は失望に終わることはありません。

ローマ人への手紙5章3～5節 a

NHK朝ドラ「あさが来た」の主人公の「あさ」こと実名**広岡浅子**は激動の維新時代を女性としては最初の実業家として活躍し、大同生命設立をし、また三井銀行を創業した実在の人物でした。そのバイタリティーへの共感が、今世紀最高の視聴率になったのでしょうか。その波乱万丈の人生は、番組で使われた「びっくりポン」そのものでした。

番組の後半では日本最初の女子大学「**日本女子大学**」設立に奔走した姿が描かれていました。そのきっかけはクリスチャンの成瀬仁蔵との出会いでした。浅子がクリスチャンになったのは晩年でしたが、クリスチャンとしての交流は前号に紹介した「**ヴォーリス**」や「**村岡花子**」や婦人参政権運動家の市川房江ですが、その接点には浅子が**YWCA (Young Women's Christian Association)**の中央委員であり、御殿場の別荘での勉強会に20人ほどの女性を集めて学習会をしたことでした。**福祉的な活動では**、花子も後にかかわった、廃娼運動を展開した**基督教矯風会の活動**などがあげられます。

朝ドラに取り上げられた「花子とアン」の**村岡花子**や「マッサン」の妻のエリーこと**竹鶴リタ**もクリスチャンでした。教会ではこの3人の生涯を解説した、ドキュメンタリービデオの鑑賞会を企画しましたので是非ご参加してください。



〒213-0023 川崎市高津区子母口776

編集

日本同盟

子母口キリスト教会



発行

基督教団

e-mail shibokuchi@church.jp

牧師 小岩井 信

http://shibokuchi.church.jp/

電話 044-766-0181

FAX 044-766-2157

ワンポイント

愛 その⑦人間の本性

崇高な神の愛から

自己愛へ転落

「あなたはどこにいるのか」神は木の繁みに隠れたアダムに呼びかけました。隠れた二人に対して、全能なる神は自分の状態を自覚させるために声をかけたのでした。アダムは「私は裸なので恐れて身を隠しました。」と答えました。人には「恥」、神に対しては「恐れ」をも知ったのです。「善悪の知識の木」の実を食べる者とは、神から離れる罪びとの本質ををよく表しています。神は善のみを知って生きる（神を知って生きる）ことを望まれたのに、サタンに従った人間は不幸にも悪をも知ってしまったのです。「食べてはならないと命じておいた木からとって食べたのか。」との神の詰問に対してのアダムの答えに自己愛への転落がはっきりと表れています。「あなたが私のそばに置かれたこの女が、あの木からとって私にくれたので私は食べたのです。」アダムの心えには自己弁護に終始し、妻であるエバにも神である主に対しても、一片の愛すら持ちあわせていないかのようです。「この女が私にくれた」とはこの女さえすすめなければ自分は食べなかったのだ。この女にすべての責任がある。と力説しています。罪とは、もともと誘惑に敗れることで、サタンから直接受けようと、エバを通してであろうと、自分で決定したことの責任は自ら負わなければならないのです。この女はあなたが私のそばに置いたので、もっと良い女を与えてくだされば、このような事態にはならなかったのだ。と神にさえ責任を転嫁しようとしているのです。まさにエゴに徹した罪びとの姿です。「蛇が私を惑わしたのです。それで私は食べたのです。」と答えたエバも、誘惑がなければ食べなかったと、自己弁護に努めています。これもアダムとまったく同質です。



すると仰せになった。「あなたが、裸であるのを、だれがあなたに教えたのか。あなたは、食べてはならない、と命じておいた木から食べたのか。」人は言った。「あなたが私のそばに置かれたこの女が、あの木から取って私にくれたので、私は食べたのです。そこで神である主は女に仰せられた。「あなたは、いったいなんということをしたのか。女は答えた。「蛇が私を惑わしたのです。それで私は食べたのです。」」

創世記3章11-13

定期集会

どなたでもおいで下さい

日	礼拝と学び 教会学校 夕拝	10:30~ 13:30~14:30 19:30~	水	聖書の学びと祈禱会	19:30~
金	聖書の学びと祈禱会	10:00~			

# 人が七転び八起きというなら自分は九回転んでも十回起き上がる人間になろう。広岡浅子

## 生い立ち

あさ 広岡浅子は幕末の京都で、豪商三井家11家の一つ三井高益の4女として生まれ、当時の商家のならわしで、2歳で婚約しました。部屋数27 大座敷3 居間9 蔵7の家に住み、「蝶よ花よ」と育てられたお嬢様でしたが、戸籍には「別腹」とあり、複雑な家庭環境があり、まるで物のように親から親に渡されて生きる女性の厳しさを肌で感じていました。好奇心が旺盛で、お転婆な娘時代に、ただ「嫁」として役立つ事を強制され、女に学問はいらないと本を読む事を禁止されてしまいました。

17歳の時(1866年)に大阪の婚約者豪商加島屋の次男の婚約者広岡信五郎と結婚しました。加島屋では好きな読書を、夫信五郎から許され、猛勉強が始まりました。今までのやり方では商売は成り立たないと危機感が、浅子を支配したのでしょう。

## 浅子の出番

翌年江戸幕府は滅亡し、それまで諸藩に貸していた9百万両(約4千5百億)のほとんどすべてが返済されず、さらに明治天皇の東幸の費用8万両(約40億円)がのしかかってきました。さらに加島屋当主の死により信五郎の弟正秋が26歳で当主になったので、浅子は信五郎と加島屋の仕事を担うのでした。



平岡信五郎

## 炭鉱業から金融業・大同生命の誕生

そこで浅子はまだ新しい分野の炭鉱事業に乗り出しました。福岡の潤野炭鉱を買収したものの、断層に阻まれ採掘が困難となった時、浅子は自身が炭鉱に乗り込み炭坑夫の元締めと直談判をして寝食をともにしながら炭坑の監督をしたのです。浅子の努力で潤野炭鉱は順調に操業をして、やがて官営製鉄所となって1963年まで石炭を算出したのだそうです。

1888年に加島屋は銀行を設立、夫信五郎も相談役を務めました。そんな折に浅子のもとにある相談が持ち込まれました。当時浄土真宗の信徒を中心とした真宗生命保険の立て直しの依頼でした。社会救済と人々の生活の安定を得る事業は生命保険事業の本質ととらえ、浅子と信五郎の弟の広岡正秋は協力しました。朝日生命と名前を変え、さらにほかの2つの生命保険会社と合併して**大同生命**を創立しました。真宗生命保険は、当時盛

んになって来た**キリスト教をつぶすための集金目的**として作られた会社だったようですが、浅子らによってその目的は変わりました。



成瀬仁蔵

## 女子大を設立

九州を奔走していた時、アメリカ帰りの青年成瀬仁蔵が浅子を訪ね、日本に女子大学を作る事を話し、その理想を書いた「女子教育」を置いていきました。浅子は一気に読んで感動したそうです。すぐに資金集めに奔走したのです。仁蔵はクリスチャンでした。浅子は実業家としての人脈から、大熊重信・伊藤博文・渋沢栄一・西園寺公望などの協力を引き出しました。こうして1901年に**日本女子大学校(現 日本女子大学)**が創立されました。浅子52歳の時でした。

## クリスチャンになって

60歳の2月、浅子は30年来の胸の腫瘍(乳がん)の手術を受けました。



山室軍平

その年の12月に大阪知事宅に成瀬仁蔵と宮川経輝牧師と浅子が招かれ、そのとき成瀬は宮川経輝牧師に浅子の教育を依頼しました。学ぶうちに、自らの傲慢さを悟り、徐々に聖書の言葉が福音(よき訪れ)として心に響いて行きました。洗礼を受けるまでにはまだ時間がかかりました。1904年のYWCAの修養会に参加した浅子は講師の**山室軍平(救世軍)**から「**聖潔之菜**」という本を薦められ、聖書とその本だけで軽井沢の別荘で生活を始めました。1911年に腎盂炎にかかり、見舞いに来た宮川経輝牧師が洗礼を薦め、浅子はその年のクリスマスに**大阪基督教会で洗礼を受けました**。浅子62歳でした。その後浅子は自分の生い立ちの闇の部分である一夫多妻の風習を是正する活動などを進めたそうです。その活動の場がYWCAでした。養子で華族の平岡恵三の娘満樹子がヴォーリスと結婚するのを、周囲が反対するなかで唯一許したのも浅子でした。

## DVD鑑賞会

7月31日(日)

13:30~

